

資料	
----	--

奥州市 景気動向調査報告書

実績：令和元年10月～令和元年12月期

見通し：令和2年1月～令和2年3月期

令和2年2月
奥州商工会議所
前沢商工会

奥州市景気動向調査結果（概要版）

実績：令和元年 10 月～令和 元年 12 月期
見通し：令和 2 年 1 月～令和 2 年 3 月期

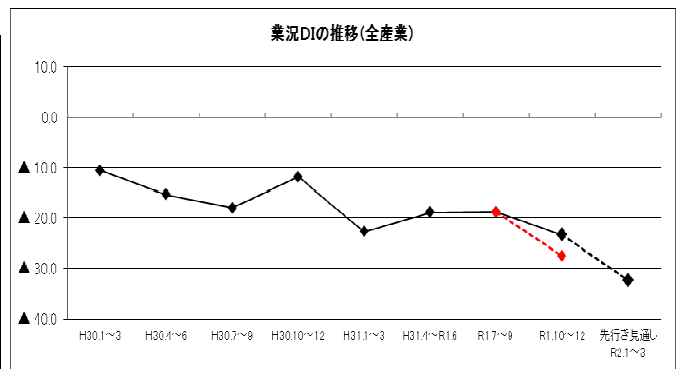
「業況DI、売上DI共に悪化を示す 先行きも業況DI、売上DI共に厳しい数値」

【ポイント】

今回調査の全産業合計の業況DIは▲23.4で、前回調査（▲18.8）と比較して4.6ポイント悪化となった。業種別では建設業が唯一プラスの数値で1.8ポイントとなった。売上DIが▲23.2で前回調査（▲21.4）から1.8ポイントの悪化となった。
先行き向こう3ヵ月（1月～3月）については、前回調査との比較で業況DIは▲32.4（前回▲27.6）と悪化、売上DIは▲32.9（前回▲21.4）と悪化した。

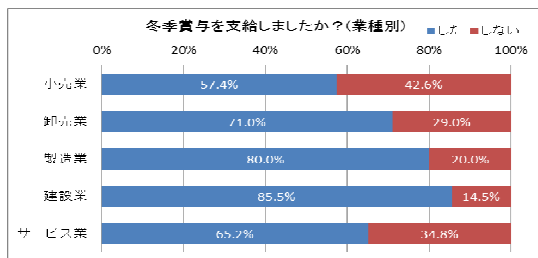
※業種別、設問別のDI値一覧表（実績：上段）（見通し下段）

	業況	売上高	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
全産業	▲23.4	▲23.2	▲21.6	▲11.8	▲38.7	30.0
	▲32.4	▲32.9	▲26.8	▲18.1	▲38.3	29.4
小売業	▲28.6	▲20.8	▲20.4	▲10.2	▲46.9	27.1
	▲48.9	▲44.7	▲37.5	▲20.8	▲47.9	29.2
卸売業	▲32.3	▲40.6	▲28.1	▲12.5	▲38.7	38.7
	▲35.5	▲34.4	▲37.5	▲18.8	▲29.0	35.5
製造業	▲22.4	▲30.0	▲28.0	▲12.0	▲30.0	8.0
	▲26.0	▲34.0	▲20.0	▲16.0	▲36.0	12.0
建設業	1.8	3.6	1.8	5.5	▲37.0	41.8
	▲15.1	▲21.2	▲9.6	▲3.8	▲37.3	34.0
サービス業	▲36.8	▲33.3	▲33.3	▲26.5	▲40.6	34.8
	▲37.9	▲32.4	▲32.4	▲28.8	▲38.1	36.4



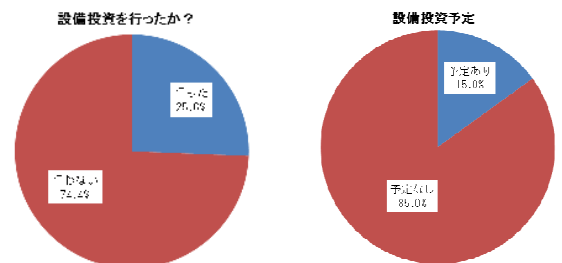
【冬季賞与について】

冬季賞与について、賞与を「支給した」と回答したのは全産業の71.9%となった。業種別の支給割合では、製造業が80.0%、建設業が85.5%と高く、他の業種でも50%以上の高い割合で支給している。



【設備投資について】

設備投資は全産業で25.6%の事業所で「行った」と回答があり、前回(26.7%)より減少した。今後設備投資の予定があると答えた事業所は15.0%となり前回調査(22.1%)より減少した。

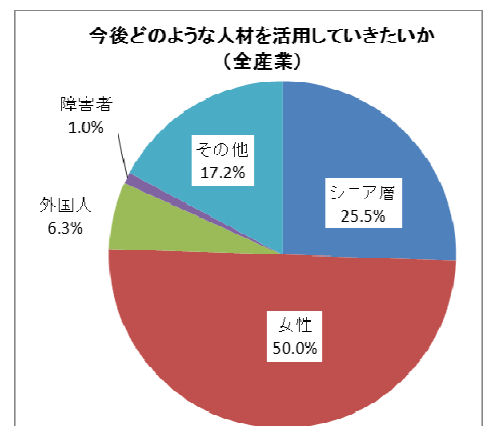
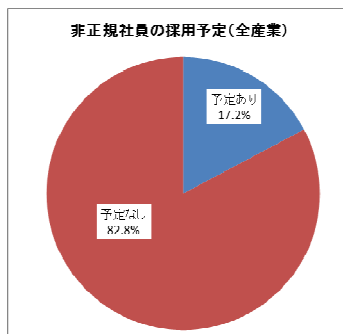
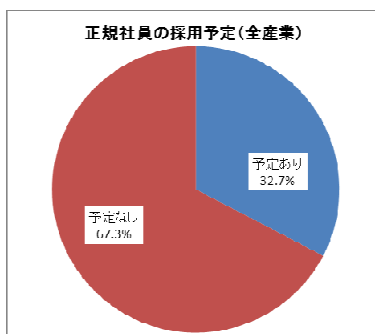


【令和2年4月採用予定と人材活用について】

令和2年4月の正規・非正規社員の採用予定については、全産業で正規社員の採用予定ありが32.7%、非正規社員の採用予定ありが17.2%となった。

高齢化により、生産年齢人口の減少が今後予想される中、今後どのような人材を積極的に活用(採用)したいかという設問について、全産業で一番高かったのは「女性」の50.0%、次が「シニア層」の25.5%となった。

現在育児等の理由で仕事を離れている潜在的な女性の労働力や、定年後も現役で働きたいと考えているシニア層の積極的な活用を希望する意見が多かった。



奥州市景気動向調査結果

令和2年1月調査結果

「業況DI、売上DI共に悪化を示す

先行きも業況DI、売上DI共に厳しい数値」

【結果のポイント】

今回調査の全産業合計の業況DIは▲23.4で、前回調査（▲18.8）と比較して4.6ポイント悪化となった。業種別では建設業が唯一プラスの数値で1.8ポイント、製造業がマイナスながら前回比プラス7ポイントの改善となった。小売・卸売・サービス業は悪化を示した。

全産業の売上高・採算・資金繰り・従業員DIについては、売上DIが▲23.2で前回調査（▲21.4）から1.8ポイントの悪化、採算・資金繰り・従業員DIは横ばい、仕入単価DIは悪化となった。

先行き向こう3ヵ月（1月～3月）については、前回調査との比較で業況DIは▲32.4（前回▲27.6）と悪化、売上DIは▲32.9（前回▲21.4）と悪化した。また仕入単価DIは前回との比較で改善、採算・資金繰り・従業員DIは前回との比較で横ばいという結果となった。

冬季賞与について、賞与を「支給した」と回答したのは全産業の71.9%となった。業種別の支給割合では、製造業が80.0%、建設業が85.5%となった他、小売・卸売・サービス業でも50%以上の高い割合で支給している。

令和2年4月の正規・非正規社員の採用予定については、全産業で正規社員の採用予定ありが32.7%、非正規社員の採用予定ありが17.2%となった。

今後どのような人材を積極的に活用（採用）したいかという設問について、全産業で一番高かったのは「女性」の50.0%、次が「シニア層」の25.5%となった。業種別でもその傾向は変わらず、現在育児等の理由で仕事を離れている潜在的な女性の労働力や、定年後も現役で働きたいと考えているシニア層の積極的な活用を希望する意見が多かった。また「その他」も17.2%あり、「20代」や「高卒～30代」の“若年層”、“技術者・経験者”という“即戦力”を希望する意見が多かった。

調査要領

- 調査期間 令和2年1月6日～22日
- 調査対象 奥州市内の事業所から、業種・規模を勘案して抽出した300事業所に対してファクシミリによるアンケート調査
- 調査項目 令和元年10月～令和元年12月の業況、売上、採算などについての状況及び自社が直面する問題点等

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算等の各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

調査票回収状況

回答数 257 回収率 85.7% 小売 49 ・卸売 32 ・製造 50 ・建設 56 ・サービス 70

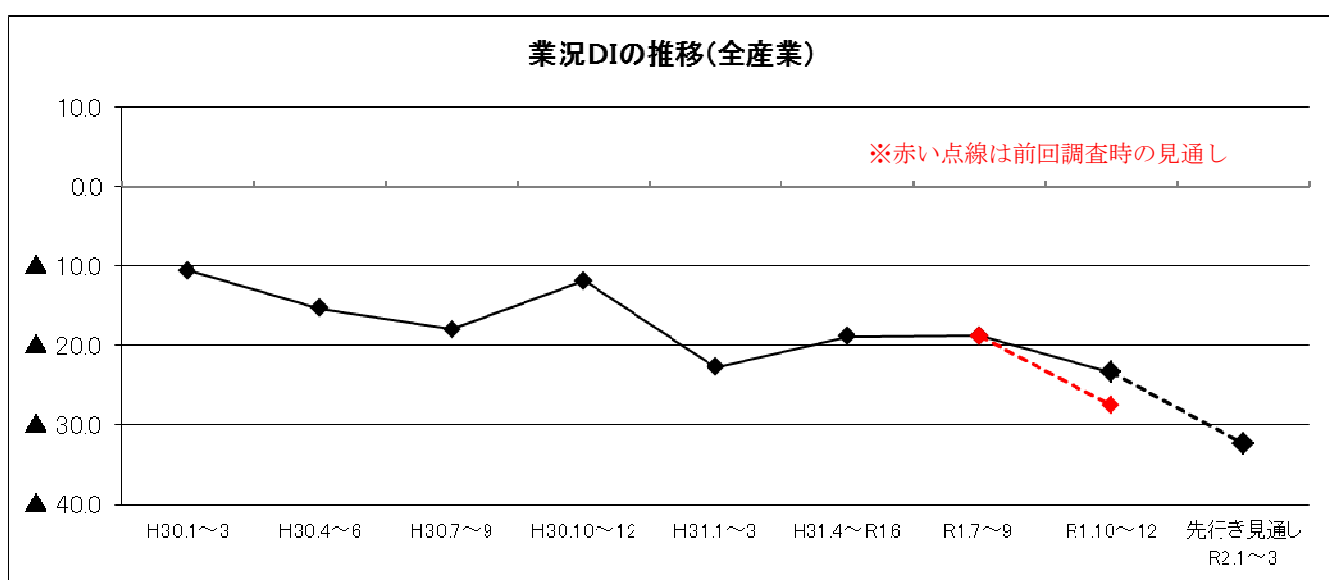
【業況についての判断】

○全産業合計の業況DIは▲23.4と、前回調査(▲18.8)から4.6ポイント悪化した。業種別では建設業が唯一プラスの数値で1.8ポイント、製造業がマイナスながら前回比プラス7ポイントの改善となった。小売・卸売・サービス業は悪化を示した。

向こう3ヵ月(1月~3月)の先行き見通しは、▲32.4と前回調査(▲27.6)よりも悪化する見通しとなった。

○業況DI(前年同期比)の推移 【全産業】

H30.1~3	H30.4~6	H30.7~9	H30.10~12	H31.1~3	H31.4~R1.6	R1.7~9	R1.10~12	先行き見通し R2.1~3
▲10.6	▲15.3	▲18.0	▲11.9	▲22.7	▲18.9	▲18.8	▲23.4	▲32.4



○業況DI(業種別)

実績	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	👇 ▲28.6	👇 ▲32.3	👉 ▲22.4	➡️ 1.8	👇 ▲36.8
前回	▲14.9	▲25.9	▲29.4	0.0	▲26.1

見通し	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	👇 ▲48.9	👉 ▲35.5	➡️ ▲26.0	➡️ ▲15.1	👇 ▲37.9
前回	▲31.9	▲40.7	▲29.4	▲11.3	▲30.9

前回調査との対比

26.0以上 👆	25.9~5.1 ➡️	5.0~▲5.0 ➡️	▲5.1~▲25.9 👇	▲26.0以下 👇
-------------	----------------	----------------	-----------------	--------------

※以降の表も同様

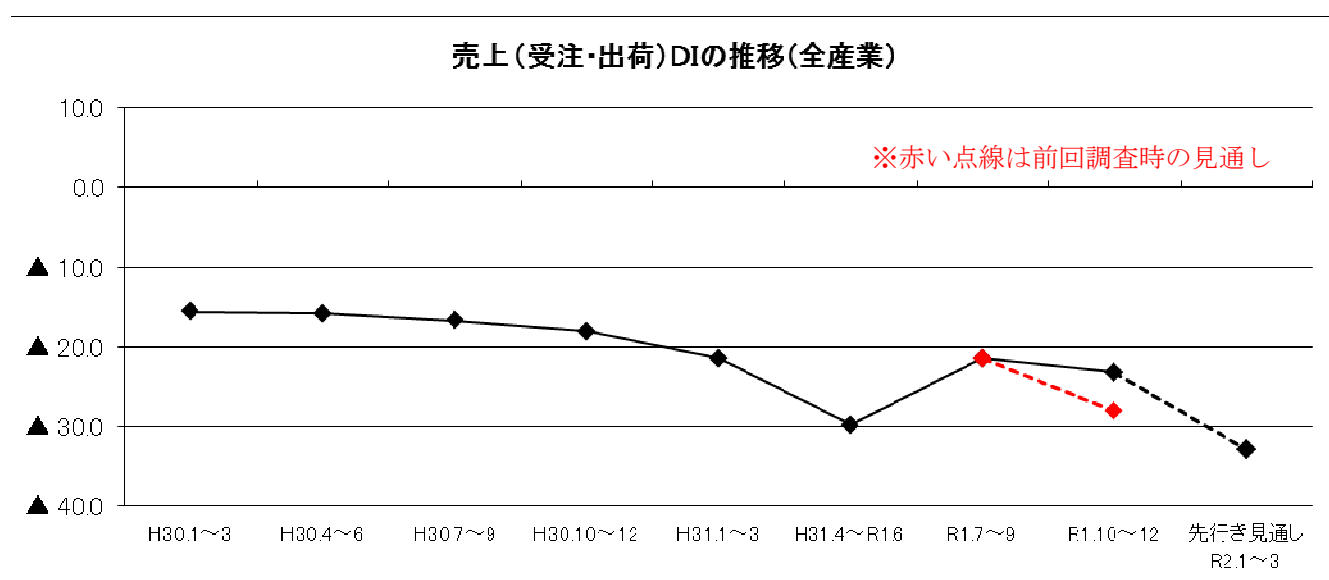
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

○全産業合計の売上DIは▲23.2と、前回調査(▲21.4)から1.8ポイントの悪化。業種別に見ると建設業がプラス3.6ポイントと前回(▲3.6)からプラスに転じた。製造・サービス業は横ばい、小売・卸売業は悪化となった。

向こう3ヵ月（1月～3月）の先行き見通しは、▲32.9と前回調査(▲28.1)より悪化する見通しとなった。

○売上（受注・出荷）DI（前年同期比）の推移 【全産業】

H30.1～3	H30.4～6	H30.7～9	H30.10～12	H31.1～3	H31.4～R1.6	R1.7～9	R1.10～12	先行き見通し R2.1～3
▲ 15.6	▲ 15.8	▲ 16.7	▲ 18.1	▲ 21.4	▲ 29.8	▲ 21.4	▲ 23.2	▲ 32.9



○売上（受注・出荷）DI（業種別）

実績	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	👉 ▲ 20.8	👉 ▲ 40.6	➡ ▲ 30.0	↗ 3.6	➡ ▲ 33.3
前回	▲ 14.9	▲ 29.6	▲ 26.0	▲ 3.6	▲ 33.3

見通し	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	👉 ▲ 44.7	↗ ▲ 34.4	➡ ▲ 34.0	➡ ▲ 21.2	➡ ▲ 32.4
前回	▲ 25.5	▲ 40.7	▲ 30.6	▲ 19.2	▲ 29.9

【採算の状況についての判断】

○全産業合計の採算D Iは▲21.6と、前回調査(▲26.0)から4.4ポイントの改善。業種別に見ると製造・建設業は数値が改善、小売・卸売・サービス業は横ばいとなった。

向こう3ヵ月(10月~12月)の先行き見通しは、▲26.8と前回調査(▲28.1)より改善する見通しとなった。

○採算D I (業種別)

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	➡ ▲ 21.6	➡ ▲ 20.4	➡ ▲ 28.1	➡ ▲ 28.0	➡ 1.8	➡ ▲ 33.3
前回	▲ 26.0	▲ 19.1	▲ 25.9	▲ 39.2	▲ 7.1	▲ 36.2

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	➡ ▲ 26.8	➡ ▲ 37.5	➡ ▲ 37.5	➡ ▲ 20.0	➡ ▲ 9.6	➡ ▲ 32.4
前回	▲ 28.1	▲ 30.4	▲ 37.0	▲ 36.0	▲ 15.1	▲ 27.3

※D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【資金繰りの状況についての判断】

○全産業合計の資金繰りD Iは▲11.8と、前回調査(▲14.6)から2.8ポイントの改善。業種別に見ると卸売・製造・建設業は改善、小売業は横ばい、サービス業は悪化を示した。

向こう3ヵ月(1月~3月)の先行き見通しは、▲18.1と前回調査(▲16.2)より悪化する見通しとなった。

○資金繰りD I (業種別)

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	➡ ▲ 11.8	➡ ▲ 10.2	➡ ▲ 12.5	➡ ▲ 12.0	➡ 5.5	➡ ▲ 26.5
前回	▲ 14.6	▲ 8.5	▲ 18.5	▲ 25.5	▲ 3.6	▲ 18.2

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	➡ ▲ 18.1	➡ ▲ 20.8	➡ ▲ 18.8	➡ ▲ 16.0	➡ ▲ 3.8	➡ ▲ 28.8
前回	▲ 16.2	▲ 25.5	▲ 14.8	▲ 11.8	▲ 7.7	▲ 20.3

※D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【仕入単価の状況についての判断】

○全産業合計の仕入単価DIは▲38.7と、前回(▲32.7)から6.0ポイントの悪化。業種別に見ると製造業は数値が改善、卸売・建設業は横ばい、小売・サービス業は数値が悪化した。

向こう3ヵ月(10月~12月)の先行き見通しは、▲38.3と前回(▲43.5)より改善する見通しとなった。

○仕入単価DI (業種別)

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	▲ 38.7	▲ 46.9	▲ 38.7	▲ 30.0	▲ 37.0	▲ 40.6
前回	▲ 32.7	▲ 29.8	▲ 37.0	▲ 35.3	▲ 36.4	▲ 27.7

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	▲ 38.3	▲ 47.9	▲ 29.0	▲ 36.0	▲ 37.3	▲ 38.1
前回	▲ 43.5	▲ 48.9	▲ 40.7	▲ 39.2	▲ 36.0	▲ 50.0

※DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【従業員の状況についての判断】

○全産業合計の従業員DIは30.0と、前回(33.3)から3.3ポイント人手不足感が改善(減少)した。業種別に見ると小売・建設・サービス業は人手不足感が改善(減少)、製造業は人手不足感が横ばい、卸売業は人手不足感が悪化(増加)した。

向こう3ヵ月(1月~3月)の先行き見通しは、29.4と前回(34.2)より人手不足感が改善(減少)する見通しとなった。

○従業員DI (業種別)

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	30.0	27.1	38.7	8.0	41.8	34.8
前回	33.3	34.8	33.3	5.9	49.1	40.3

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	29.4	29.2	35.5	12.0	34.0	36.4
前回	34.2	32.6	25.9	9.8	54.7	40.9

※DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

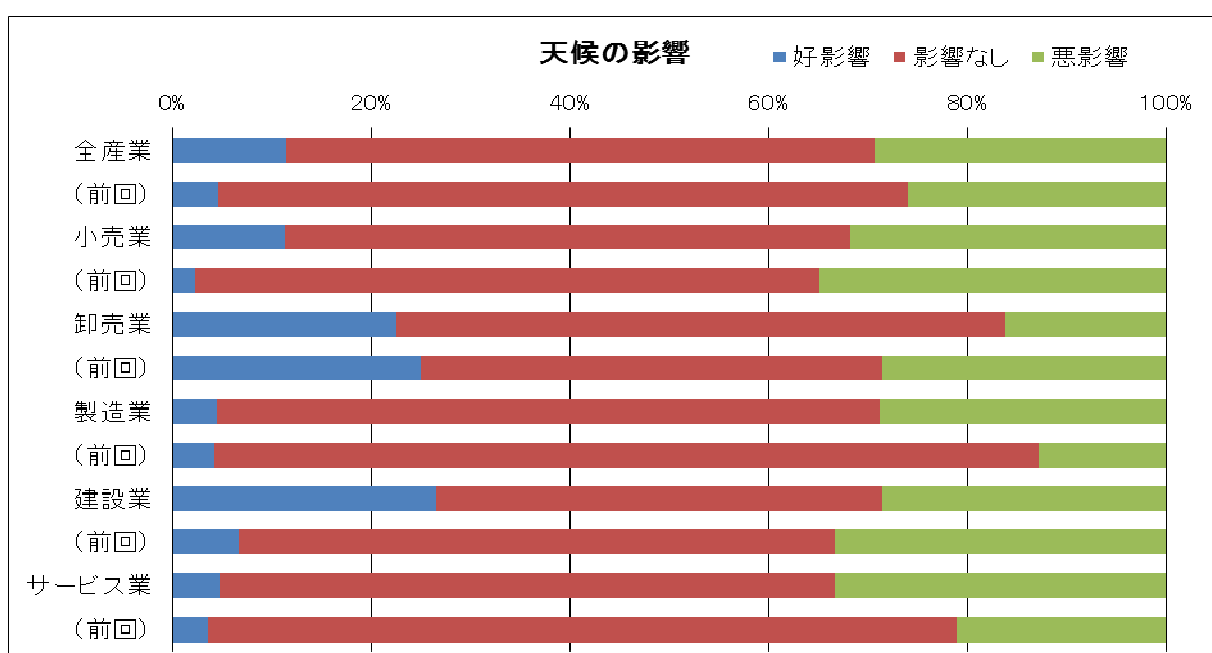
《経営環境》

【天候の影響】

○天候の影響は、全産業で好影響が11.4%、影響なしが59.2%、悪影響が29.4%の回答となった。業種別では建設業が26.5%、卸売業が22.6%好影響と答え、サービス業が33.3%、小売業が31.3%悪影響と答えた。前回比で見ると、小売業と建設業で好影響の割合が大幅に増加した。

○天候の影響（業種別影響割合）

	全産業	小 売	卸 売	製 造	建 設	サービス
好 影 響	11.4%	11.4%	22.6%	4.4%	26.5%	4.8%
影 響 な し	59.2%	56.8%	61.3%	66.7%	44.9%	61.9%
悪 影 響	29.4%	31.8%	16.1%	28.9%	28.6%	33.3%

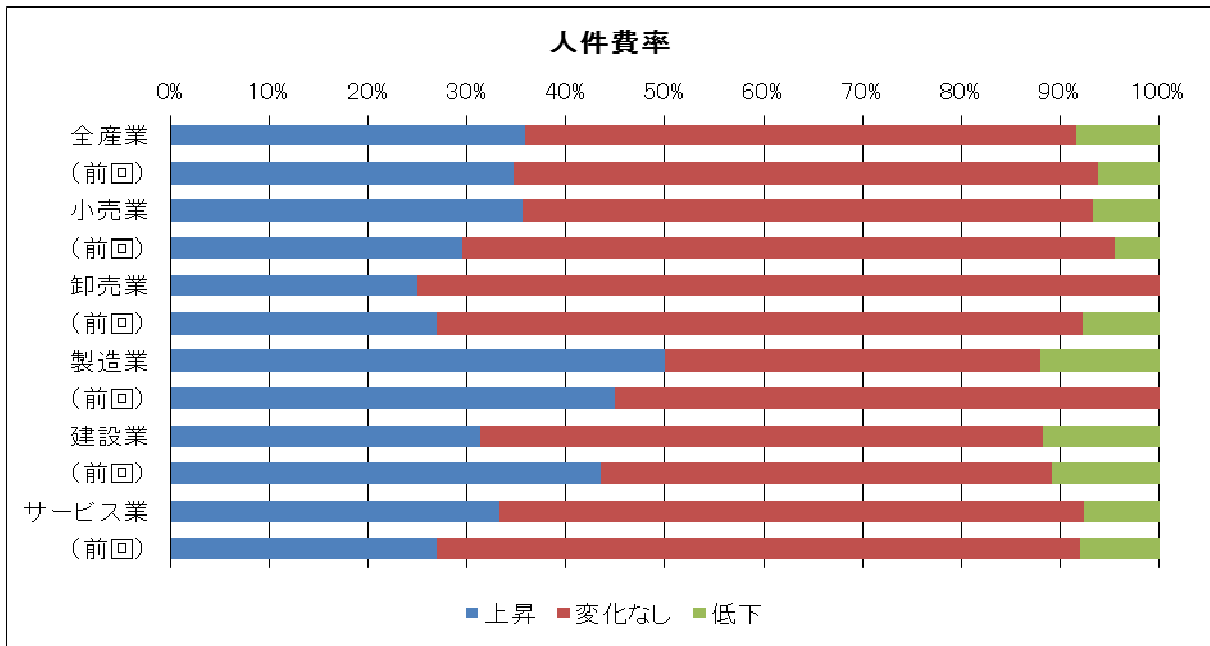


【人件費率】

○人件費率は、全産業で上昇が35.8%、変化なしが55.8%、低下が8.3%という回答となった。業種別に見ると製造業で上昇の回答が50.0%と全産業中最も高く、卸売業では低下の回答が無かった。前回比で見ると、小売・製造・サービス業で上昇の割合が増加、卸売・建設業で上昇の割合が減少した。

○人件費率（業種別人件費率割合）

	全産業	小 売	卸 売	製 造	建 設	サービス
上 昇	35.8%	35.6%	25.0%	50.0%	31.4%	33.3%
変 化 な し	55.8%	57.8%	75.0%	38.0%	56.9%	59.1%
低 下	8.3%	6.7%	0.0%	12.0%	11.8%	7.6%

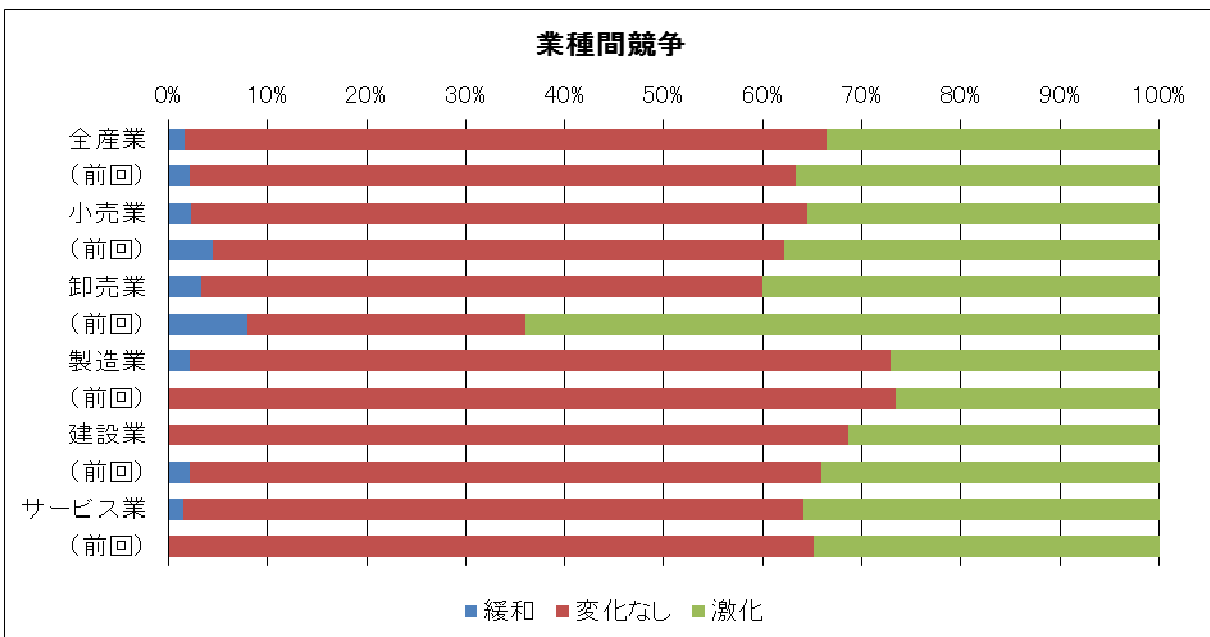


【業種間競争】

○業種間競争は、全産業で緩和が1.7%、変化なしが64.7%、激化が33.6%という回答となった。業種別では最も高い卸売業でも3.3%と低く、建設業は緩和の回答が無かった。また全業種で変化なしの回答割合が高くなっている。前回比で見ると、小売・卸売・建設業で緩和と激化の割合が共に減少、反対に製造・サービス業で緩和と激化の割合が共に増加した。

○業種間競争（業種別競争状況割合）

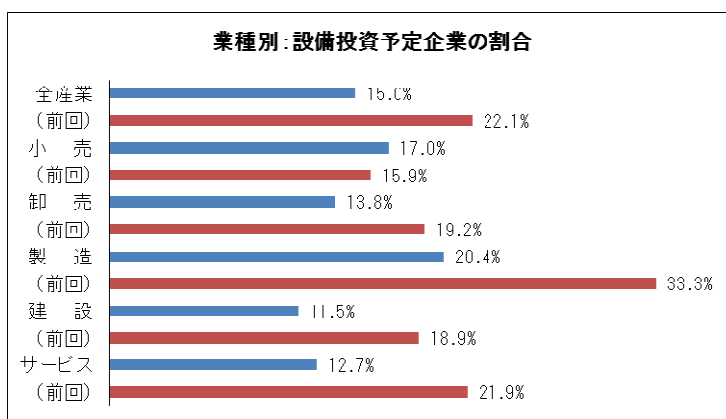
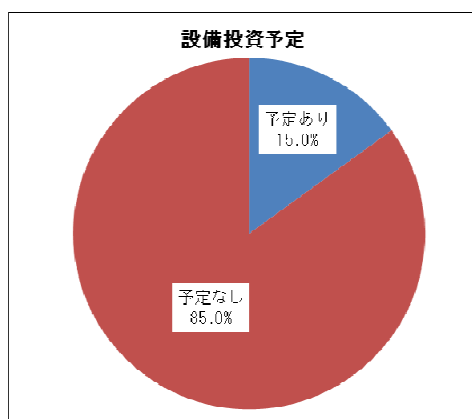
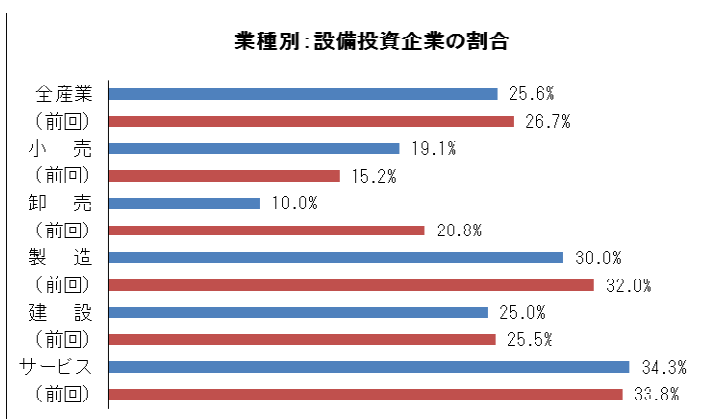
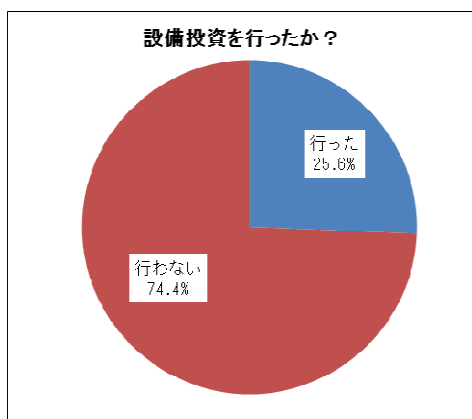
	全産業	小 売	卸 売	製 造	建 設	サービス
緩 和	1.7%	2.2%	3.3%	2.1%	0.0%	1.6%
変 化 な し	64.7%	62.2%	56.7%	70.8%	68.6%	62.5%
激 化	33.6%	35.6%	40.0%	27.1%	31.4%	35.9%



【設備投資】

○設備投資は全産業で25.6%の事業所で「行った」と回答があり、前回(26.7%)より減少した。業種別ではサービス業で34.3%、製造業で30.0%、建設業で25.0%が「行なった」と回答した。前回比で見ると小売・サービス業で「行った」の回答が増加した。

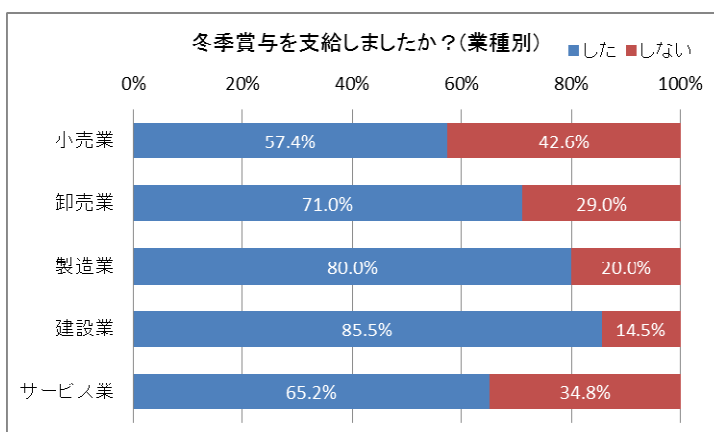
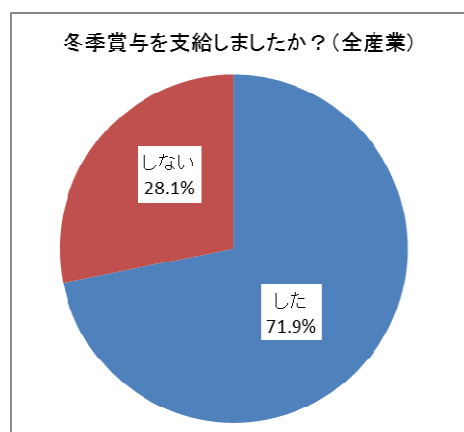
今後設備投資の予定があると答えた事業所は15.0%となり前回調査(22.1%)より減少した。業種別では製造業で20.4%、小売業で17.0%が「行なう予定」と回答した。前回比で見ると小売業で「行う予定」の回答が増加、卸売・製造・建設・サービス業で「行う予定」の回答が減少した。



「臨時調査」

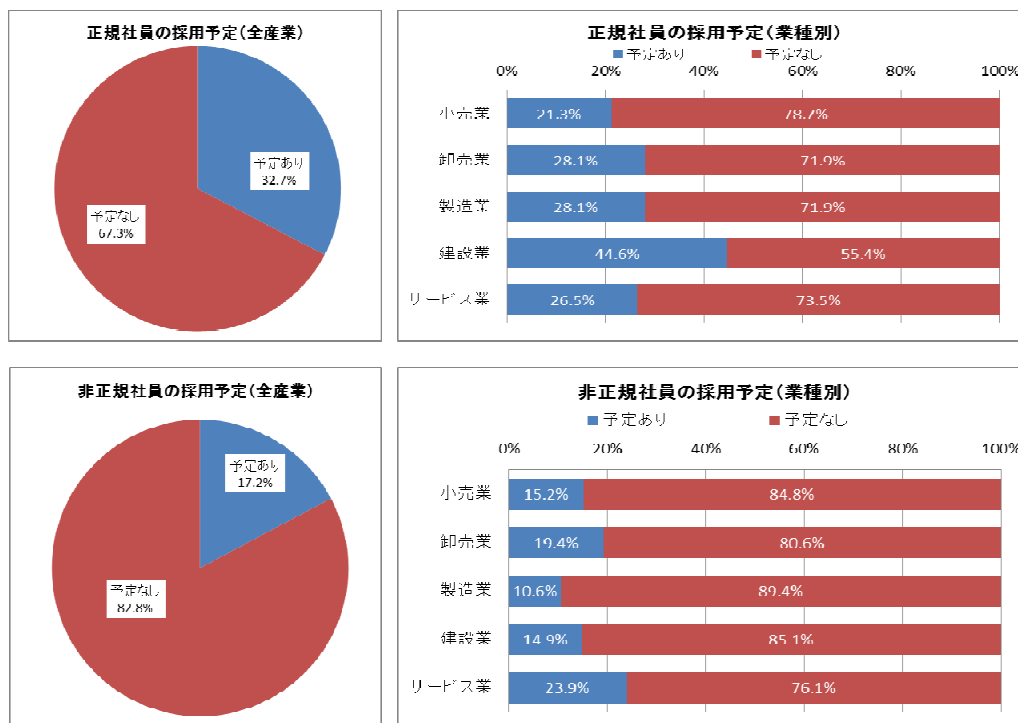
【冬季賞与について】

冬季賞与について、賞与を「支給した」と回答したのは全産業の71.9%となった。業種別の支給割合では、製造業が80.0%、建設業が85.5%となった他、小売・卸売・サービス業でも50%以上の高い割合で支給している。全産業で夏季賞与(前回調査)の支給割合よりも高くなっている。



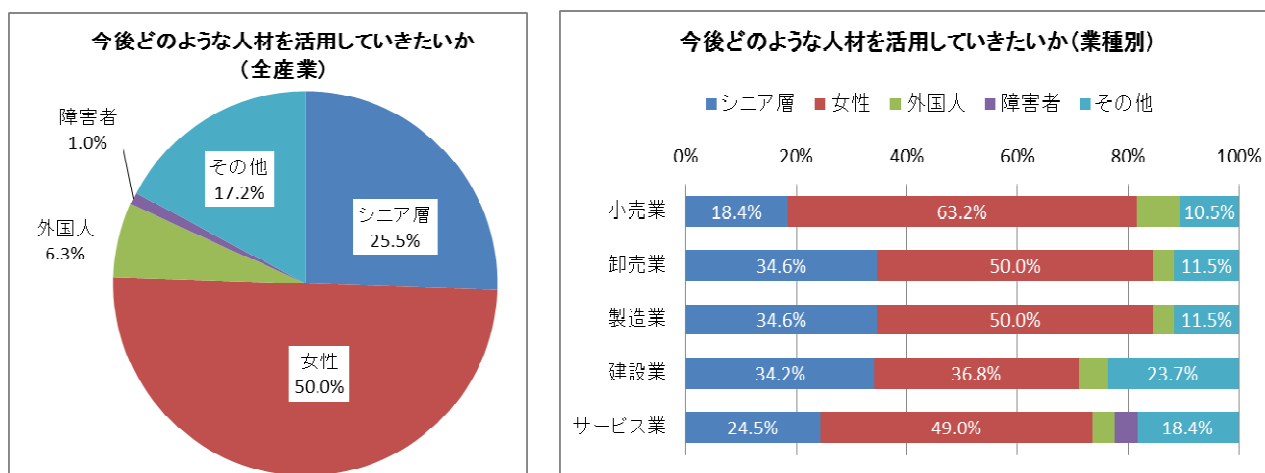
【令和2年4月の正規・非正規社員採用予定について】

令和2年4月の正規・非正規社員の採用予定については、全産業で正規社員の採用予定ありが32.7%、非正規社員の採用予定ありが17.2%となった。業種別でみると、正規社員の採用予定では建設業が44.6%、卸売・製造業が共に28.1%「予定あり」と回答、非正規社員の採用予定ではサービス業が23.9%、卸売業が19.4%「予定あり」と回答した。



【多種多様な人材活用について】

高齢化により、生産年齢人口の減少が今後予想される中、今後どのような人材を積極的に活用(採用)したいかという設問について、全産業で一番高かったのは「女性」の50.0%、次が「シニア層」の25.5%となった。業種別でもその傾向は変わらず、現在育児等の理由で仕事を離れている潜在的な女性の労働力や、定年後も現役で働きたいと考えているシニア層の積極的な活用を希望する意見が多かった。また「その他」も17.2%あり、「20代」や「高卒~30代」の“若年層”、「技術者・経験者」という“即戦力”を希望する意見が多かった。



その他：自由意見

(小売業)

- ◇顧客のネット買い移行で、パーツ部品売上げが年々減少している。接客時に販売部品の差別化説明を進めている。
- ◇力仕事、高所作業など年齢的に難しくなっていると日々感じている。体調を整えて仕事を続けられるように考えていきたい。
- ◇10月以降、家庭用の配達が無くなった。
- ◇消費税増税前の駆け込み販売はほとんど無かったが、10～12月と月を追うごとに売り上げは下がり、正月の初売りもパツとしない状況。あまりの変化に先が全く読めない。
- ◇初売りも通常と同じ感じになって来ている。業務店の減少により売上が減少した。
- ◇台風被害から景気が悪い。
- ◇近い将来、我々小さい店はますます厳しい状況に追い込まれ廃業するようになる。当店もあと何年持つか。
- ◇現在人手不足だが自力でやるしかない。以前は店員がいたのだが高齢で退職、現在家族で経営している。
- ◇相場高に伴い、全国的に荷動きが悪い。

(卸売業)

- ◇卸売業の他に、環境測定分析検査、簡易専用水道検査、温泉分析の機関として登録した。
- ◇人手不足で、募集しても誰もこない。
- ◇温暖化の影響が農作物の生育及び消費動向に顕著に影響を及ぼしている。消費税の増税の影響もそれに追い打ちをかけている状況。世界規模で進んでいる温暖化に、私たち人類が真剣に向き合わなければならないと思う。

(製造業)

- ◇米中貿易摩擦、日韓問題、イラン情勢等これらの問題が落ち着かない限り、今の状況もしくはそれ以下になると思う。五輪後がもっと心配である。
- ◇社員募集はしておりますが、面会に来る人がいません。
- ◇働き方改革、利益率向上対策を実施。

(建設業)

- ◇仕事数が少なくなっている
- ◇全従業員月給制と完全週休二日制を導入した。
- ◇増税後の景気冷え込みに不安を大いに感じている。
- ◇FM放送を使って奥州・一関に応募放送をしているが、反応が無い。
- ◇市場が目に見えない競争を感じている。3月にエンジニア(外国人)を採用する予定であり、更に外国人研修生を雇用する予定。

(サービス業)

- ◇人手不足だからといって、シニアや外国人等を雇用するのでは、いつか歪が生じる。理想と離れていくので、営業時間やオペレーションを見直して、いかに人手をかけないかを取り組む。
- ◇学習塾は少子化、消費税アップ、最低賃金アップとトリプル打撃を受けている。

- ◇最低賃金が毎年このペースで上昇し続けると、2,3年後はやっていけない。
- ◇他からのお客様の出入りが無ければ難しい。人の出入りが全く少ない。
- ◇昨年6月以降週末予約以外の平日の来客が殆ど無い状態。出張等の来客もすっかり減った。忘年会シーズンも週末のみで平日の予約がない。12月に来客無しの日があるとは思わなかった。打開策として仕出しの広告を作り、それなりの注文が来るようになった。
- ◇消費税の増税がどのように影響するか心配。
- ◇外国人雇用も一つの選択に今後なっていくと思う。
- ◇働き方改革の影響もあり、非常に厳しい状況であると認識している。